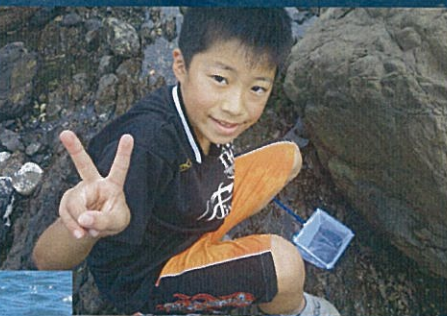


所報むろと — 2015 第28号 — (平成26年度 事業報告)



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立室戸青少年自然の家

巻 頭 言

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立室戸青少年自然の家
所 長 石 川 昇

平成 26 年度に実施した事業の報告を冊子にまとめました。是非とも御高覧いただき、御意見や御助言を賜りましたら幸甚です。

平成 26 年度は台風などの天災に悩まされ、施設設備の被害だけでなく、多くの団体が利用をキャンセルされ、施設存続のための最低要件である稼働率 50%超が困難な状態となっていました。しかし、地元室戸市有志のみなさんによる国立室戸青少年自然の家利用促進協議会や機構本部をはじめとする関係諸氏の御協力により、稼働率 50%を達成することができました。この場を借りまして、深く感謝申し上げます。

近年、当施設の事業で重要となってきているキーワードとして「防災」が挙げられます。「防災」をテーマとした事業だけでなく、様々な研修の中でメタルマッチやビニール袋を使った野外炊事を提案したり、雨天時の活動として防災にちなんだロープワーク教室を行ったりと、防災意識の高揚に努めています。また、活動時の被災を想定した職員トレーニングにも力を入れており、AED を使った救急救命講習はもちろん、活動場所からの避難訓練や消火訓練なども定期的に行っています。食料や飲料水の備蓄も含め、これからも「防災」を強く意識した事業運営を行っていききたいと思います。

また、地域に根差した施設として、各種イベントにブースを出したり、室戸ジオパーク推進協議会等の団体との協力による事業展開を進めています。これからも地域との連携を深めながら、室戸市民や高知県民から「おらんくの施設」と親しんでいただけるような施設を目指してまいります。

平成 27 年度は「高知家まるごと東部博」が開催され、室戸岬に造成中の「室戸世界ジオパークセンター」が事業を開始いたします。高知県東部、特に室戸市に注目が集まる一年となることが予想されますので、これを好機ととらえ、施設の魅力をますますアピールしていききたいと思います。みなさまの一層の御支援をいただけますようお願いいたします。

目 次

平成26年度事業報告

調査研究事業

- ウォーターワイズⅢ ----- 1

教育事業

- ボランティア養成講座 ----- 3
- 日本列島ともだちの輪 ----- 5
- 黒潮チャレンジキャンプ ----- 7
- 自然体験活動指導者養成講習 ----- 8
- ジオパーク防災キャンプ ----- 11
- 自然ふれあい体験事業 ----- 12
- ジオ化石博士になろう ----- 13
- 教員免許状更新講習 ----- 14
- ふれあい通学合宿 ----- 15

子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

- キッズデイ①～④ ----- 17
- 室戸くろしお祭り ----- 18
- 桜・花めぐり①～③ ----- 19
- 室戸の海まるごと体験①② ----- 20
- 室戸オープン卓球大会（小学生の部） ----- 20
- 迎春準備 門松を作ろう！ ----- 20
- ファミリーデイ ----- 21
- ミュージックキャンプ ----- 22
- 自主防災組織リーダーのための防災ワークショップ ----- 22
- むろと2000本桜祭り ----- 23
- 室戸トレイルランナーズミーティング2015 ----- 23

地域応援事業

- 高知県武道室戸大会 ----- 24
- 中・四国6年生軟式野球室戸大会 ----- 24
- 四国交流三四郎のつどい ----- 24
- 四国少年野球大会（5年生） ----- 25

管理運営報告 ----- 26

広報活動 ----- 32

利用実績 ----- 33

調査研究事業

事業名

ウォーターワイズⅢ

趣旨

近年の大災害をきっかけに、市民の防災への関心は大幅に高まってきており、自然の放つエネルギーの巨大さに畏怖しながらも安全を獲得しようとする努力が各方面でなされている。また、多様化した海のレジャーや海辺での活動時の海難事故防止の必要性もさらに高まってきている。自然体験活動の教育機関である当施設での「自然の中の危険から身を守る」教育への期待は、なお一層大きなものになっていると言える。

そこで本年度は、ウォーターワイズの考え方を基に、当施設の設備・備品や近隣の海の活動ポイントなど、教育的活動に適する資源を有効に活用し、直接自然の素晴らしさやエネルギーを体験する新たなプログラムの開発をスタートさせることとした。

ここで述べるウォーターワイズ (Waterwise) とは、水 (water) に賢くなる (wise) という意味の造語で、ニュージーランド発祥の水辺での活動プログラムのことである。このプログラムは、セーリングやカヤッキング等のウォータースポーツを通して、その楽しさや素晴らしさに気づかせながら水辺環境への理解を促し、環境を保護する意識や責任感を養うとともに、水辺における安全教育 (water safety) を行うことを主なねらいとしている。

当施設で開発を目指すプログラムでは、水辺での様々な活動や海洋スポーツ等を通して、海浜活動の楽しさや素晴らしさに気づかせながらも、自然の危険な側面についての認識や安全な関わり方への正しい理解を促し、「生きる力」を養うことを目的としたものにする。今後想定される南海トラフ地震及び津波に対して、子供たち自らが「地域における率先避難者」となれるよう、「自然・海の楽しさ、恩恵」と同時に「自然・海の力の大きさ、脅威」について体験的に学ぶことに主眼を置いて、それらの学習の導入となるプログラム開発を行う。平成 26 年度は「ウォーターワイズⅢ」新規活動プログラム開発協議会を設置し、モデル的なプログラムの開発を行う。

調査対象

室戸市立吉良川小学校 11 名

実施期間

平成 26 年 1 月～平成 28 年 3 月

平成 25 年度 新規プログラム開発協議会による協議

平成 26 年度 協力校による開発プログラムの実施と教育的効果の分析
実施後参加者アンケート項目の検討

平成 27 年度 開発プログラムの改善と事業成果のまとめ

運営の留意点

教育的効果を検証するため、当施設が独自作成した「ウォーターワイズⅢアンケート」を事前、事後、1 カ月後に実施する。また、新規プログラム開発協議会委員会を構成し、助言をいただく。

近隣の施設と協力して、所外に出た時の避難場所などの提供を受けられるよ

うに連絡を取り合う。

活動プログラム

	9月25日	9月26日	10月11日
AM		波の力を体験する活動プログラム	講話、演習
PM	水流の力を体験する活動プログラム		
夜	振り返り		

事業の成果

本年度「ウォーターワイズⅢ」を立ち上げ、企画していく過程で、室戸近郊の他施設との交流や連携を図ることができた。その関係から、新規プログラム開発協議会委員会を構成し、2泊3日の防災やジオパークなどの視点を取り入れたり、参加校のニーズを取り入れたりしながら、新しい海の活動プログラムの開発を行い、実施することができた。

また、新規プログラム開発を行う過程において、職員の防災に対する見識も深まり、海の活動のマニュアルの改訂にも役立った。

事業の課題

活動の具体的な目的・内容に関しては、今年度新規プログラム開発協議会委員の協力を得てモデルプランを作成し、実施することができた。ただ、評価システムの構築が不十分である。評価項目は「自然の偉大さ」「自然への親しみやすさ」「自然の力の大きさへの認識」「実際に実行に移す認識」「活動の楽しさ」等でのよいのか。評価の方法はアンケートを活用するのか、他の方法を活用するのか。評価システムの構築が大きな課題となってくる。

また、2泊3日と長期にわたるプログラムになるため、利用できる団体が限られてしまう恐れがある。そこで、1泊2日に対応したプランの開発も必要になる。

さらに、悪天候により通常の活動が制限される等、学習の効果が十分に発揮できないケースも考えられる。今後は、天候による活動場所の変更があった場合でも実施可能な効果的な指導方法の工夫を模索していくことも必要になる。

今後の方向性

今年度は、「スクールウォーターワイズⅢ」として、海や防災に関わる有識者を招き、新規プログラム開発協議会を立ち上げた。作成した新規プログラムについては、平成26年度から高知県、徳島県の学校を中心に活動を行いプログラムの検証作業を進めていく。

【実施予定校】

- ・徳島県海陽町立穴喰小学校
- ・徳島県海陽町立海部小学校
- ・室戸市立羽根小学校
- ・田野町立田野小学校
- ・室戸市立吉良川小学校

また、評価の基準となる「自然や人とのかわりに関するアンケート（本部作成）」のアンケートと室戸青少年自然の家が独自作成した「ウォーターワイズⅢアンケート」を基に、次年度については、評価の方法についても検証をしていく。

教育事業

事業名

ボランティア養成講座

趣旨

国立青少年教育施設で教育効果の高い自然体験・生活体験活動の機会を提供するために、研修支援や教育事業及び業務においてボランティア活動を行う法人ボランティアを育成する。

対象

当施設の法人ボランティアとして活動する意思のある者、小学校等が実施する自然体験活動を支援する意志のある18歳以上の者。

実施期間

平成26年5月24日(土)～25日(日)

参加者/定員

40名/30名

活動プログラム

	5月24日(土)	5月25日(日)
午前	青少年教育施設の現状と運営 野外炊事	青少年教育施設におけるボランティア活動の意義 ボランティア活動の意義
午後	救急救命法	
夜	青少年教育の理解	

事業の成果

参加者全員が学生であり、特に新規登録を希望している1回生達が講義や演習を重ねながら、少しずつボランティア活動の役割や意義、活動における安全管理への理解を深めていった。特に、参加者の受講態度を例に挙げて「命の尊さ」と「参加者を安全に怪我なく帰す」ことの重要性を説いた講義では、ボランティアや将来の指導者としての資質を問われ、真剣に学ぶ姿があった。また、継続登録者も多く参加することにより、初参加者のモチベーションを上げるとともに、昨年度のボランティア活動の様子を説明するなどして1回生の初参加者とのつながりができ、研修がより有意義になった。

事業の課題

質の高い法人ボランティアを育成するためには、研修を更に重ね、特に参加者の要望に応えられる内容を検討する必要がある。また、安全管理やリスクマネジメントについては事業ごとにケースを考えて行動しなければならないことが予想されるので、施設だけの研修ではなく、いろんな研修の機会を紹介することで人材育成につなげたい。

また、大学との単位制につながる連携が必要である。



事業名

法人ボランティア自主企画事業

趣旨

「ホップ・ステップ・キャンプ! inむろと」～探して選んでつくろうスマイル～

法人ボランティア自身で事業の企画・立案・運営を行うことにより、1年間のボランティア活動の成果を発揮する場を設け、資質向上につなげる。また、参加児童に対しては、自然体験活動を通してスキルアップを図り、オリジナル野外炊事の中で子どもの社会性や協調性を育む。

対象

小学校5、6年生

実施期間

平成27年1月24日（土）～25日（日）

参加者／定員

23名／40名

活動プログラム

	1月24日（土）	1月25日（日）
午前		野外炊事
午後	オリジナルオリエンテーリング	
夜	野外炊事作戦会議	

事業の成果

参加者同士が様々な場面で相談しながら決めて行動することにより、協調性や時には自分の持ち味を生かして、積極的に行動できている場面が多く見られた。何より、参加者と法人ボランティアが共に笑顔で活動することで活気があり、とてもいい雰囲気での活動を終えることができた。

事業の課題

企画の段階での事業の趣旨や目標をもっと明確にすること。また、参加者にその趣旨がわかりやすく伝わるようなチラシ、募集要項であることが基本であり、そのクオリティが高くないと魅力ある事業として見てもらえないなどの企画段階での反省点が多く残った。

事業を安全かつスムーズに実施するための基本的な要件がまだ十分理解できていない。また、参加者同士の話し合いの場面をどう見守るのかにも課題が残った。

参加者の感想

【参加者】

- みんなで役割ややることを決めて動いたことが楽しかったです。
- 自分達で考えた料理を作るのは初めてなので不安でしたが、みんながたくさんのお意見を出してくれたおかげでいつもよりおいしいごはんができてすごく良かったです。
- ボランティアの人が優しく、たくさん体験ができてとても楽しかったです。
- 初めて出会った人達との仲間の輪が広がってすごく良かったです。

【法人ボランティア】

- 普段と異なったリーダー主体の事業であったため、今まで以上に自分のしなければならないこと、子どもと関わる上での態度を学ぶことが出来た。

- つどいの集合時間やプログラムの開始・終了時間を全体が守れるような動きが十分にできなかった。声をかけるタイミングやリーダー全員でお互いを支え合う姿勢を改めて見直していきたい。
- 全体を通して、子供たちの笑顔を見ることができたので、この企画のねらいに近づけたと思う。また自分から意見を言う子や話し合いに積極的に参加している子も見られたので、準備に時間をかけてきてよかった。



事業名

日本列島ともだちの輪

趣旨

お互いに異なる地域の子どもたちが交流し、生活習慣や自然環境等の違いを体験することで、ともだちの輪を広げ、郷土の良さを再認識するとともに、他者を尊重する気持ちを育むことをねらいとする。

共催

組合立丹波少年自然の家（兵庫県）

対象

高知県内に住む小学5年生から中学2年生までの児童・生徒と、組合立丹波少年自然の家の募集に賛同した近畿地域の小学5年生～中学2年生までの児童・生徒

実施期間

夏編 平成26年 8月10日（日）～平成25年 8月13日（水）3泊4日

※ 台風接近のため中止

冬編 平成26年12月26日（金）～平成25年 12月28日（日）2泊3日

参加者／定員

29名／30名

活動プログラム

	12月26日（金）	12月27日（土）	12月28日（日）
午前			丹波焼体験
午後	はじめのつどい 交流ゲーム 丹波栗スイーツ作り	スキー体験 (アップかんなべ)	おわりのつどい 解散
夜	スキーウェアサイズ合わせ 交流会	お別れパーティー	

活動の様子

本来ならば初日の集合時に「久しぶり、元気だった？」などの会話でスタートするはずであったが、台風の影響を受けて夏編が中止だったため、参加者の多くが初対面でどことなく緊張した表情でバスに乗り込んだ。バス内でのレクリエーションなどで少しずつ緊張はほぐれていったものの、班ごとでの交流はどことなくぎこちなかった。丹波少年自然の家に到着し、班ごとに分かれた交流ゲームで

ようやく笑顔で楽しむ様子が見られた。ただ、男の子の一人がなかなか馴染めず、表情が硬いことが気になっていた。丹波栗を使った簡単お菓子づくりで、やっとその子が積極的に楽しそうに調理する姿があった。全体的にみんなで協力しながら、おいしいものを作りたいという熱気にも溢れてきていた。その後の食堂で夕食を食べている雰囲気には班ごとに様々な形があり、少しずつ班の特徴がよく表れ、リーダーの声掛けが重要になる場面も多々見受けられた。翌日のスキー体験に備えたウェアのサイズ合わせの時間では、丹波・室戸の参加メンバーが仲良く手伝いながら互いの姿を見せ合う様子が伺えた。その後の交流会では、その雰囲気が継続され、とても活発に動きのあるゲームで班同士が競いつつ、盛り上がりを見せていた。

2日目のスキー体験では、例年丹波参加者と室戸参加者が上・中級コースと初心者コースにはっきり別れてしまうため、交流する場面が少なくなってしまうと懸念されていたが、今年は室戸参加者の多くが上・中級コースに入ったことで少しは緩和された。また、この活動内で大きな成長を遂げた子がいる。なかなか思い通りにスキーができず、すぐに「もう無理、できん」という言葉を何度も発していたが、友達やリーダーのアドバイスを受けながら、少しずつ滑れるようになることで、自信をつけていった。「楽しいな！やれば、できるんよな」などの声も聞かれ、その後の活動においても、素直に人の意見に耳を傾けて行動できるようになってきていた。4グループに分かれて活動するために、班自体で交流する時間はあまりなかったが、それぞれのグループで声を掛け合い、滑り方などを教えてもらうことによって参加者同士の距離が縮まり、全体として和やかな雰囲気を形成していった。夜の感想発表会では想いを語り合い、それぞれの成長の跡を感じることができた。特に、班のリーダーに向けての感謝の言葉を述べる際に涙ぐむ子やリーダーの姿には感極まった。また、将来の夢として、「リーダーとしてこの日本列島ともだちの輪に深く関わっていきたい」と語る丹波・室戸双方の参加者がいたことに感慨深いものがあった。

最終日の丹波焼体験では、全員がそれぞれの思いを込めて真剣に取り組んでいった。隣の子の作品に刺激を受けながら、時にはアドバイスもし合って形にしていった。初めて体験する子が多かったが、世界にひとつだけの作品が完成した。おわりのつどいを終えてバスに乗り込む時に、丹波参加者・リーダー・職員が花道を作り出し、全員が握手しながら笑顔で声を掛け合っていた。小学5・6年生と中学1年生は再会を誓い、中学2年生は別れを惜しんでいたようだ。バス内での雰囲気も行きとは全く違い、ゲームひとつするのもみんなが大きな声を出し、全員が一体となって協力して、盛り上がった。2泊3日の体験活動で丹波参加者との交流はもちろんのこと、室戸参加者同士の輪も広がった瞬間でもあった。

事業の成果

丹波栗を使ってのお菓子作りやスキー体験で互いに協力し合うことができ、室戸では経験することのできない気候・風土を体験することで雪国での生活についても学ぶことができた。また、互いの地域のことや、自分達のことを話し合ったりして、交流を深めることができた。

事業の課題

長期継続事業ゆえに事業のねらいが曖昧になりつつある。今後、室戸・丹波の異なった自然・風習・食事にふれる活動に主眼を置くのではなく、今一度日本列島ともだちの輪での目指す子供像を明らかにし、参加者の成長に即するプログラムの作成が必要だと感じた。

一人一人が自分の抱える課題を明確にして、目標を掲げてトライしたり、グループでの協力や成長を確認できるような流れにしたい（歴史的な人物を学習しながら、など）。

参加者の感想

○ 私は、小学校5年生から4年間毎年日本列島に来ていて、スキーや丹波焼を経験させてもらいました。知っている友達もたくさんいたけれど、初めて会う友達も結構いて、最初は不安でした。でも、丹波の人がとても優しく、笑顔で1日目の交流ゲームをしてくれたお陰で緊張がほぐれました。

○ 班はいつもシーンとしていて最後までこうかなと思っていたけれど、時に笑い合ったり、支え合ったりしてすごく楽しい班になったかなと感じました。

○ つながりの輪、日本列島ではつながりが広がっていきました。2回しか参加していないことが悔しいです。日本列島がこれからもずっと続いていくことを願っています。最後に、私には夢があります。それは室戸ボランティアリーダーになることです。この夢をくれたのも室戸の職員さん、リーダーさんです。次は参加するだけでなく、支えていくリーダーになりたいと思います。3日間本当に有り難うございました。



事業名

黒潮チャレンジキャンプ

趣旨

高知市から室戸岬までの移動型キャンプの中で、仲間とともに困難に立ち向かい、克服する体験を通して、自己肯定感や社会性、協調性といった「生きる力」を育むことを目的とする。

共催

関西テレビ青少年育成事業団

対象

中学生・高校生

実施期間

平成26年8月18日（月）～8月22日（金）4泊5日

参加者／定員

19名／30名

活動プログラム

8月18日(月)	8月19日(火)	8月20日(水)	8月21日(木)	8月22日(金)
開会式 テント設営 食事作り 目標設定	マウンテンバイク (高知市桂浜～ 奈半利町) 食事作り	マウンテンバイク (奈半利町～ 自然の家) 食事作り ミーティング	徒歩(自然の家～ 新村漁港) 鯨舟(新村漁港～ 室戸岬新港) 生還パーティー	あとかたづけ ふりかえり 閉会式

運営の留意点

事業前から共催団体と連絡を取り合い、日程や役割分担を確認しながら、天候や参加者の状況に応じた柔軟な対応ができるようにした。

また、事前にルートや利用施設等の下見を実施し、実施時の状況に応じたコース変更等が行えるようにした。

事業の成果

参加者が、感想で述べているように自分にとって困難なプログラムを成し遂げて自己肯定感を高める事ができたことや体験を通して社会性や協調性を感じる事ができたことは事業の趣旨が達成され、公表に値すると考える。

参加者を“来年もこの事業に参加して、自分にチャレンジしたい”という気持ちにさせた事業だった。

事業の運営に関わった法人ボランティアは、参加者と関わりながら気持ちを探り、伝え、お互いを知り合うなど、関わりきることで通じ合う気持ち、変化していく参加者の様子を垣間見ることができた。このような事からも参加者だけでなく、法人ボランティアにとっても体験を通して生きる力を育む“やりがい”のある事業となった。

企画運営する上では、関西テレビ青少年育成事業団等関係機関との連携方法や協力要請の手順、また、安全管理の徹底方法、スタッフの組織体制づくりなど本事業の諸事項についての再確認ができた。

特に関西テレビ青少年育成事業団との連携は本事業をスムーズに完遂する上で大変重要な事である。

事業の課題

- ・ 募集定員の確保。
- ・ 実施時期の調整。
- ・ 期間中、天候が不安定だったため（豪雨だったり、暑かったり）参加者の体調管理が難しかった。
- ・ 天候に応じたテント泊、施設泊、事業プログラムの実施の有無の相談、判断。
- ・ 熱中症予防のためにも、水分補給、適宜休憩、体を冷やすことができるような途中休憩の場所、宿泊地を考慮しておくことが今後も必要である。
- ・ 日差しがきつく、ひどい日焼けになっている者がいた。（日焼け予防対策）
- ・ 班の交流を高める時間を初日に多く取れると、事業の趣旨に沿う効果がより上がると思われる。

今後の方向性

今日の青少年にとって「困難を乗り越え、自己肯定感を高める」ことを目的とする本事業の意義は大きい。今後も移動型キャンプのノウハウの蓄積、スタッフトレーニングの充実等を通して、多様なコースでの実施を考えていく。

参加者の感想

○ 仲間の大切さを再認識する事ができた。ありがとう。

- このキャンプで、譲り合うだけでなく、自分の意見を言い合う事ができたし、いい思い出になった。
- 最初の頃は“ダルい”という気持ちが大きかった。しかし、次第に“皆で成功させたい”という気持ちが芽生えてきて、皆で何か一つの事をやり遂げるのがこんなにも楽しいんだなと感じる事ができた。
- 今回、私は少しだけ自分が変わったような気がする。“何でも挑戦する”って大事やなと思った。これを機会に苦手な人も物も正面から立ち向かって好きな物にしていきたい。



事業名

趣旨

対象

実施期間

参加者／定員

活動プログラム

自然体験活動指導者養成講習（NEAL リーダー研修）

青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を養成する。（資格の要件を満たし、資格登録を希望すれば、NEAL リーダーの指導者資格を取得できる。）

大学生・青少年教育関係者・学校教育関係者

平成 26 年 10 月 11 日（土）～10 月 13 日（月） 2 泊 3 日

19 名／30 名

	10 月 11 日（土）	10 月 12 日（日）	10 月 13 日（月）
午前		ジオパークフォトビンゴ	ガイダンス 認定式
午後	青少年教育における体験活動 対象者理解 野外炊事	自然体験活動の特質 自然体験活動の安全管理	
夜	自然体験活動の指導①	自然体験活動の指導②	

活動の様子

台風 19 号の接近により開催が危ぶまれたが、参加者全員無事集合して開講式をスタートした。文部科学省スポーツ・青年局青少年体験活動推進専門官の講義・演習では、データでみる「最近の若者たち」で参加者に考えさせる形で入り、「青少年を取り巻く現状」「青少年教育の目的と目標」を講義していただいた。交流ゲームでは、「指導者として青少年にさせたい体験は何ですか？」との問いかけに参加者同士が自己紹介を交え、意見交換ができ、リラックスできる雰囲気を作ってくださっていた。最後に「体験活動の意義と効果」「今後の体験活動の推進」の説

明で締めくくっていただいた。続いて、「対象者理解」の講義・演習を終えた後に場所を野外炊事場に移しての「自然体験活動の技術①」を実施した。指導者としての野外炊事のポイントを抑え、グループごとに協力しながらメタルマッチでの火起こしや災害救助用炊飯袋などを使用しての野外炊事に挑んだ。翌日の悪天候が予想されたため、翌日に予定されていた「自然体験活動の指導」についての講義を2コマに分け、前半分を実施した。

2日目は雨が予想されたがなんとか持ちこたえ、海に直接入っての活動はできなかったものの、場所を室戸岬に移動し、ジオパークフォトビンゴを実施した。台風接近による悪天候で実施が危ぶまれたが、強風の中でも雄大な室戸ジオパークの自然を感じながら楽しんでいた様子だった。その後、海浜活動センターに場所を移して海の活動の様子、特に安全管理に関する指導を含めての説明。午後からは、室戸ジオパーク推進協議会学術専門員より「自然体験活動の特質」をテーマに説明があった。「大地は止まっているようにしか見えないが、実は動いて隆起している。その上にいろんな生命があるというつながり」をいかに工夫して気づかせるかなどの方が参加者からも出ていた。また、「強風の中での実施については問題もいくつかあったが、この厳しい条件の中でこそ感じられるものがあった。」と有り難いお言葉を掛けていただいた。続いて、室戸市消防局による普通救命講習を4グループで実施したが、窓越しに見える外の天候を気にしながらも、真剣な眼差しで取り組む姿があった。その後、「自然体験活動の指導」の後半が行われ、2日間の活動の振り返りや自然体験活動「指導者」としておさえおきたいこととして、誠実な対応、謙虚な態度や健康管理、年齢や対象に応じて理解度が異なることから、それに応じて適切な伝達方法をとることや参加者とのコミュニケーションを上手にはかることなどが大切であり、常に指導者は継続的な自己研鑽が必要であることを学んだ。基本原則は、「参加者を第一に考えること」であり、「指導者としてどんなことを大切にして指導していきたいですか」とのテーマで話し合いの形をいろいろと変え、できるだけ参加者が意見を交換できるような雰囲気の中であつという間の時間を過ごした。最終日には台風の影響で交通機関がストップする可能性が予測されたが、ガイダンス・認定試験・閉講式が実施でき、参加者が無事に帰れたことが奇跡的であった。

事業の成果

この事業は、自然体験教育施設職員や教職員、学生ボランティアに参加を呼びかけ実施したが、他施設においても事業が多いことや大学等においても大学祭などのイベントが多い時期であり、加えて台風等の悪天候が予想され、募集人数になかなか達することが厳しい状況であった。

学生・施設関係者・自然体験活動指導者など異なった立場の参加者がいることにより、新たな出合いやつながりを感じることでできたり、そのつながりの中で多くのことを学び、そのつながりを更に今後に生かすことができる可能性が感じられた。

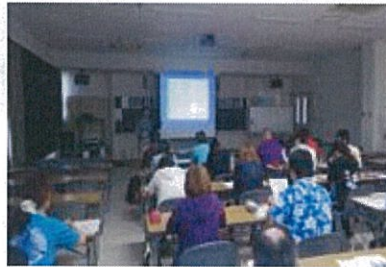
自然体験活動指導者として基本的なものを学び、参加者それぞれの立場に応じて考えたり、見つめ直したりすることにより、適切かつ安全に指導ができる指導者の育成につながってくるはずである。

事業の課題

- ・募集定員の確保。
- ・実施時期の調整。
- ・5月のボランティア養成講座との兼ね合い
- ・プログラムの内容
- ・外部の講師をもっと増やすべき。

参加者の感想

- この事業に参加させていただき、社会人の方とも関わることを含めて大変勉強になりました。出会いやつながりがとても大事だなと感じることができました。このような出会いを大切に、多くの人からいろんな事を学んでいきたいと思えます。そして、自然体験の指導者としては、自分の思いや考えを大事にしながらも子供が中心となる活動ができるように支えていければと思いました。
- 講師の先生方の話し方、声のトーンなど受講内容以外のところでも大変参考になる場面が多く、大変有意義な3日間を過ごすことができました。NEALの新しい制度を実際の運営や体験を通じて理解することができました。運営側と参加者の両側面を見ることができて濃密な時間となりました。
- 台風が近づいている中、何度もプログラムの変更が有り大変だったと思います。運営するスタッフの方を見ることで、自分の日常の仕事の振り返りにもなりました。



事業名

ジオパーク防災キャンプ

趣旨

南海トラフと共生してきた街として、ただ地震・津波を恐れるのではなく、ジオパーク学習の一環として、正しい知識を身につけ、有時の際に冷静且つ率先して避難する青少年（ジュニア防災リーダー）を育成する。

共催

室戸ジオパーク推進協議会

対象

小学校5年生から高校2年生

実施期間

平成26年9月13日（土）～9月15日（月） 2泊3日

参加者／定員

26名／40名

活動プログラム

	9月13日(土)	9月14日(日)	9月15日(月)
午前	開講式 ジオパーク探検	波と遊んで海を知ろう!	振り返り 閉講式
午後	サバイバルクッキング	避難所快適化計画	

事業の成果

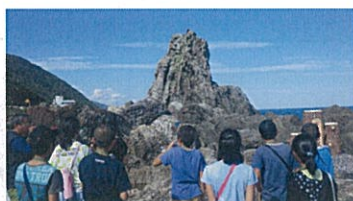
ジオパーク関連の事業はこれまでも開催してきたが、今回は初めて「防災」をキーワードにプログラムを構成した。室戸の地理的条件を学ぶだけでなく、地形と津波のメカニズムの関係性など、ジオパークと防災を有機的に結び付けて学習することができた。また、波乗り体験やダンボールハウスでの避難所模擬体験など「体験」を活動の中心にしたことで、防災への意識を高揚させることができた。

事業の課題

防災に関する知見は日々更新されており、最新の知識・技術を取得できるよう、プログラムは毎回見直す必要がある。

参加者の感想

- 津波の強さを知るために波乗り体験ができて良かったです。
- 津波がどう起こるかなどがわかってよかった（学校では学べないことも）
地層などはきらいやったけど、おもしろいと思った。



事業名

自然ふれあい体験事業

趣旨

不登校等課題を抱える青少年が自然と触れ合う体験を通じて、人との関わりや達成する喜びを得るとともに、指導者間のネットワーク作りに資する。

共催

高知県心の教育センター

対象

不登校など心に悩みを持つ中学生・高校生およびその指導者・保護者

実施期間

平成26年10月9日(木)～10月10日(金) 1泊2日

参加者/定員

11名

活動プログラム

10月9日(木)	10月10日(金)
開会式 イルカトレーナー体験 食事作り・持ち寄りパーティー	オーシャンカヤック ふりかえり

運営の留意点

共催団体と常に連絡を取り合い、役割分担を確認しながらも、状況に応じた柔軟な対応ができるよう、密な関係性を構築した。また、参加者の体調を把握し、状況に応じてプログラムを柔軟に変更できるように様々なケースを想定して臨んだ。

事業の成果

様々な活動を通してスタッフも含めた参加者同士の交流が深まり、事業後は高

知県心の教育センターの教室でも積極的に参加する姿が見られた。また、この事業をきっかけに保護者同士のつながりも深まり、ネットワーク作りに資することができた。

事業の課題

参加人数やプログラムの変更など、突発的に起こりうるアクシデントに柔軟に対応できる体制作りが必要。

今後の方向性

こうしたイベントに継続的に参加することで参加者の変容も大きくなると想定されるので、複数回の開催と継続的な変容の調査が必要。

事業名

ジオ化石博士になろう

趣旨

室戸ジオパークという貴重な地質遺産や、県東部にある化石群の発掘を通して、大地の成り立ちを知り、自然と人間との関わりを食生活や産業、歴史などの観点から理解することをねらいとする。

共催

高知県立青少年センター

対象

小学4年生～6年生までの児童

実施期間

平成26年11月1日（土）～11月3日（月） 2泊3日

参加者／定員

33名／40名

活動プログラム

	11月1日（土）	11月2日（日）	11月3日（月）
午前	開講式	化石採集 （安芸郡安田町唐浜）	化石クリーニング 名前調べ 標本作り
午後	ジオパーク探検 鯨館見学	（青少年センターに移動） 化石の話 野外炊事	認定式 閉講式
夜	化石夜話		

運営の留意点

共催団体と事前打合せを行い、変更点等を確認した。活動場所については一緒にお願いの挨拶に出向き、プログラム内容においては役割分担を明確にした。

事業の成果

本事業は、高知県立青少年センター、室戸ジオパーク推進協議会と共同開催したことで、室戸ジオパークから唐浜化石発掘場など高知県東部の広範囲にわたって活動することができ、地質専門員の協力を得たことで、詳しい内容をわかりやすく参加者に提供することができた。参加者においては、事業の活動に対して、意欲の面で個人差があるものの、ジオパークや化石に対して高い関心を持っており、専門的な知識を求める参加者にも対応することができた事業である。共同で活動案を作成したことで、広範囲を移動しながらも、それぞれの担当が明確にされており、各活動が機能した。参加者は、様々な見学や活動体験をすることができ、理解を深め満足する事ができた活動となった。

事業の課題

県立青少年センター、室戸ジオパーク推進協議会との共同開催ということで、それぞれの機関を生かした活動ができるように更なる打ち合わせ時間の確保により、より詳しい内容の把握や役割分担の詳細を明確にする必要がある。今後も多

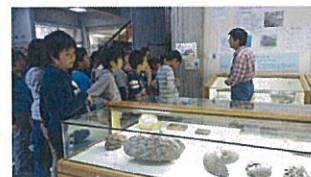
くのリピーターが予想されるため、より良いプログラムを検討し、多彩な体験活動を提供していく。

今後の方向性

化石に興味・関心を持つ児童は確実にいるので、今後もリピーターが参加することが予想される。今後は大地の成り立ちから、更に、自然と人間とのかかわりに発展させられるようなプログラムを考えて、体験活動を提供していきたい。

参加者の感想

- 1日目は天気が悪く、化石掘りができなくて残念だったが、2日目その分熱心に掘る事ができて良かった。もっと掘りたかった。何回来ても楽しい。
- 化石クリーニングし、自分で作った標本箱に自分の化石を入れると、自分の掘ってきた化石が宝物になってとても充実した時間が過ごせて良かった。
- 初めて化石掘りができていい経験になった。また参加したい。
- 化石を掘って大きな貝が出てきたときは友達と大喜びした。大きい化石や珍しい化石を見つけてうれしかった。
- 楽しく化石掘りもできたし、友達も増えて良かった。
- この三日間で、知らない人と友達になれたこと、化石が色々取れて楽しかったこと、野外炊飯でみんなで協力できたこと、化石クリーニングで自分が発掘した化石がどういう化石なのか分かったことなどたくさんの思い出ができた。この体験を忘れることはないと思う。



事業名

教員免許状更新講習

趣旨

「学級指導・学級経営に生かす自然体験活動①②」

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な指導技術を身につける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

対象

平成28年3月31日及び平成29年3月31日に終了確認期限を迎える小・中学校教諭

実施期間

- ①平成27年2月14日（土）選択領域6時間分
- ②平成27年2月15日（日）選択領域6時間分

参加者／定員

- ①54名／30名
- ②53名／30名

活動プログラム

	2月14日(土)	2月15日(日)
午前	開会行事、オリエンテーション 実習「野外炊事(カレーライス)」 事前・事後指導、薪割り・火起こし体験	開会行事、オリエンテーション 講義「安全管理」
午後	講義「体験活動の意義と学習指導要領」 履修認定証明	実習「ジオパークを生かした自然体験活動の指導法」 履修認定証明

運営の留意点

プログラムのスケジュールの見直し(特に初日)

事業の成果

災害時に活用できる「災害救助用炊飯袋」を用いて炊飯を行うなど、受講者の要望を取り入れた講習を行うことができた。

事業の課題

本年度は天候に恵まれ、比較的穏やかな日に実施できたが、冬期の開催であり、気候によっては実施できないプログラムも含まれていた。荒天時のプログラムについては検討の余地がある。

今後の方向性

参加者の要望を取り入れながら、充実した講習になるように運営の改善、講習内容の検討を行っていききたい。

参加者の感想

- メタルマッチや災害用炊飯袋でのご飯作りなど、初めて体験する内容が多く、防災についての知識・理解をつけることができた。
- 久しぶりに子どもの立場にかえることができました。1つの達成感や喜びを共有することができました
- 危険予知と危険回避行動が安全管理上に重要であり、自分たちの指導力、安全管理能力が必要なことが分かった。
- 体験活動のみならず、指導者の立場にある限り、常に安全管理を徹底させる意識をもっていなければならないと思った。
- ジオパークについての知識を得ることができ、室戸の良さをたくさん知ることができた。



事業名

ふれあい通学合宿

趣旨

規則正しい生活をする事により、自分で生活のリズムを作れるようになるとともに、新しい環境・人間関係の中でも、積極的にコミュニケーションをとることができる等、人間関わりに必要なスキルの習得を目指す。

協力

室戸市教育委員会

対象

小学校5、6年生

実施期間

平成27年2月22日(日)～2月28日(土) 6泊7日

参加者/定員

42名/50名程度

活動プログラム

日中はそれぞれの学校に登校
2月22日（日）四国霊場 88ヶ所の遍路道を歩く、野外炊事
2月23日（月）レクリエーション
2月24日（火）暗闇探検
2月25日（水）レクリエーション
2月26日（木）レクリエーション
2月27日（金）キャンドルファイア

事業の成果

来年から同じ中学校に通う小学校6年生が、中学校生活にスムーズに入っているように人間関係を深めることができた。

日常生活リズムが乱れがちな児童に対して、模範的な生活リズムで1週間過ごすことにより、生活リズムの改善を促すことができた。

事業の課題

- ・ 日程的な課題
- ・ 学校との連携
- ・ 保護者への啓発

参加者の感想

- 最初は不安だったけど、すぐにみんなと仲良くすることができた。勉強をあんな静かに集中してしたことがなかったので、家に帰っても集中して勉強したい。
- たくさんの友だちができ、中学校でどんなクラスになるのか不安だったけど、楽しみになった。立てた目標を中学校に行くまで守りたい。
- 朝早く起きると朝ごはんも食べられるので、早寝早起きを心掛けたい。

子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

事業名

キッズデイ①～④

趣旨

自然体験活動を通して、家族間のふれあいを深める。

対象

- ①小学3～6年生の児童及びその保護者
- ②小学1～4年生の児童及びその保護者
- ③小学生までの園児・児童とその保護者
- ④保育園・幼稚園の幼児、小学1～2年生の児童とその保護者

実施期間

- ①平成26年7月12日(土)～13日(日) 1泊2日
- ②平成26年11月29日(土)～30日(日) 1泊2日
- ③平成26年12月20日(土)～21日(日) 1泊2日
- ④平成27年1月10日(土)～11日(日) 1泊2日

参加者/定員

- ① 50人/70人 ② 72人/60人 ③ 58人/100人 ④ 97人/100人

事業の様子

キッズデイ①「海のフシギたんけん隊」

昨年度に開催した「磯観察編」が好評だったため、海の生き物を中心に採り上げた。地元NPOの協力でアカウミガメの子供に触れる体験をしたり、海草からところてんを作ったりと、普段はなかなかできない体験が多く、子供たちは目を輝かせて取り組んでいた。最終日の磯観察も、潮溜まりに潜む多種多様な生き物に親子ともども夢中になり、雄大な太平洋の魅力を少しでも紹介できたのではないかと思います。

キッズデイ②「手打ちうどんを作ろう！」

今回は「手作り」にこだわり、具材となる青のりの収穫や竹箸作りから体験してもらった。青のりは海洋深層水を使用している養殖場で説明を受けてから収穫し、子供たちは初めて見る生きた青のりに興味を示していた。竹箸も自分で削り出すことで愛着が湧いたらしく、昼食で使った後も大切に持ち帰る姿が見られた。出来上がった手打ちうどんは太さがバラバラだったが、粉をこねたり延ばしたりという作業から自分で行ったためか、昼食時には笑顔が広がっていた。

キッズデイ③「ちょっと早めのクリスマス」

初日は、親子でキャンドル作りを楽しんだ。子どもがキャンドルを作っている様子を保護者が温かく見守ったり、手伝ったりと、会話をしながらの和やかな雰囲気だった。天候不良で材料探しの所内散策はできなかったものの、その後の親子レクリエーション大会では、大いに盛り上がり全員でエネルギッシュなひとときを過ごした。夜のキャンドルのつどいでは、始めはゲームで大いに盛り上がったが、その後キャンドルに火を灯すと雰囲気は一変して厳かな空気が漂い、気持ちの落ち着いた静かなセレモニーが行われた。次の日のリースやクラフト作りでは、それぞれが真剣なまな

ざしで活動に取り組み、時間を忘れ、作品作りに没頭した。どの作品も思いのこもったものが出来上がった。そして、親子で観賞しあい、作品を見ながらの会話が弾み、大満足の様子であった。

キッズデイ④「自然だ、おもちだ、けんちんだ、親子大集合！」

「年明けのキッズデイは餅つき」と定着してきたのか、大勢の家族連れで賑わった。慣れない包丁を扱う子供たちに保護者が手を添えてあげたり、杵を振る時には指導員がアドバイスをしたりと、子供たちが主役のほほえましい光景が見られた。正月に餅つきをする家庭は減ってきたが、日本の食文化を伝承する意味でも、貴重な機会となったのではないかと。



事業名

室戸くろしお祭り

趣旨

自然の中での様々な体験活動を通して、交流を深めたり、当施設を多くの方々に知ってもらう。

実施期間

平成26年10月25日(土)～26日(日)

参加者/定員

約3,500人/定員なし

事業の様子

本事業は、施設開放事業として定着しているイベントである。自然の中での様々な体験活動を通して、交流を深めたり、当施設を多くの方々に知ってもらうことを目的として多くの地域の方たちの協力を得て実施している。今回は数年ぶりに前夜祭を正式に企画し、温かなキャンドルの明かりを楽しんだり、「子ども体験遊びりんピック」で大いに楽しんでもらった。また、当日は天候にも恵まれ、正面広場にはパトカーや消防車・高所作業車の乗車体験などでにぎわう中、トラクターSLの順番を待つ子供たち行列を作り、その側では当施設ならではのタッチプールをたくさんの子どもたちが取り囲んでいた。中庭にはたくさんさんのテントが並び、高知海洋高校によるマグロの解体・販売や地元の方たちによるアトラクションや販売でにぎわった。中でも地元の保育所のマーチングバンド演奏には大きな拍手が起こり、祭りを盛り上げてくれた。



事業名

桜・花めぐり①～③

趣旨

桜もちづくりといった料理体験や、花を押し花にする等の体験活動を通して、自然に親しむことや、活動自体の楽しさを感じることを目的とする。また、新たな仲間との出会い、参加者相互の交流を図り、地域・家庭における教育力の向上に資することを目的として実施する。

対象

小学生（1～6年生）を含む親子

実施期間

①平成26年9月20日（土）～21日（日） 1泊2日

②平成26年11月22日（土）～23日（日） 1泊2日

③平成27年2月21日（土）～22日（日） 1泊2日

参加者／定員

①8名 ②118名 ③37名／各回50名程度

事業の様子

桜を中心とした花に親しむプログラムを親子で楽しんでいただいた。

第1回は北川村にある「モネの庭マルモットン」との連携で、モネの名画「睡蓮」を模した「モネの庭」を散策したり、押し花キーホルダー作りや寄席植え体験で、季節の花を楽しんだ。美しい「モネの庭」の風景の中で、親子の交流もできたようだ。

第2回は香りつきや押し花をあしらったキャンドルを作り、いいお土産ができて子供たちも満足そうだった。他にも、選択活動として実施した焼き芋体験も人気だった。

第3回は入浴剤作りと「むろと2000本桜祭り」参加がメインの活動で、特に「むろと2000本桜祭り」での苔玉作りが好評であった。3回を通して花に親しんできたが、3回目少し早い花見となり、花尽くしのこの事業の最後を飾ることができた。



事業名

室戸の海まるごと体験①②

趣旨

日頃穏やかな瀬戸内海で生活をしている児童が、当施設が提供する海の活動を体験する。それにより、自然に親しむ活動の楽しさを感じるとともに、自然の力の大きさ雄大さを感じることができ、また、参加者相互の交流、新たな仲間との出会いから、協調性を高めることを目的とする。

対象

香川県観音寺市内在住の小学4～6年生

実施期間

①平成26年7月27日（日）～29日（火） 2泊3日

②平成26年8月29日（金）～31日（日） 2泊3日

参加者／定員

①42名 ②38名／各回40名

事業の様子

香川県からの当施設利用実績が少なかったことから、将来の学校利用につなげるためにも、太平洋での活動を全面的に押し出し、香川県内でも①地域に絞って企画した。また、来所するための交通手段がネックになると思われたので、送迎バスも香川県観音寺市まで出した。すると、定員を大きく超える申込みがあり、あまりの反響の大きさに予定していなかった第2弾も企画した。天候不良で一部のプログラムは実施できなかったが、いずれの回も参加した子供たちは雄大な太平洋での活動を存分に楽しむことができた。

今後の方向性

今後は、バスによる送迎が可能なエリア内で、別の地域もターゲットにして企画したい。



事業名

第7回室戸オープン卓球大会（小学生の部）

趣旨

高知県・徳島県の小学生

対象

平成26年12月13日（土）～14日（日）

実施期間

参加者／定員

141人（10チーム）／32チーム

事業の様子

高知・徳島両県内の小学生卓球愛好者の交流を目的に、当施設を会場にして日頃の練習の成果を試しあうとともに、交流を深めた。

宿泊を伴う大会は数が少ないため、参加した子どもたちは毎年この大会を楽しみにしており、続けて参加しているチームが多い。活動チーム数の減少もあり、参加チームが減少している。広報時期を早め、四国四県のチームに交流を呼びかけるなど、今後も参加者の拡大を図りたい。



事業名

迎春準備 門松を作ろう！

趣旨

ミニ門松や凧作りなど、日本ならではの正月文化に触れるとともに、手作りならではの達成感を味わい、物を大切にする心を養う。

実施期間

平成26年12月6日（土）～7日（日） 1泊2日

参加者／定員

40人／40人

事業の様子

凧作りでは様々な凧を作れるように準備していたが、子供たちはいろんな種類の凧を作るよりもお気に入りの一つがよく飛ぶよう改良することに夢中になっており、いろいろ工夫する中で凧が飛ぶ仕組み等を理解していったようだ。夜は巨大双六や土佐弁かるたといったオリジナルのお正月遊びを楽しみ、遊びを通して参加者間の交流を深めた。また、ミニ門松作りでは飾りつけの際に親子でコミュニケーションを取る姿が頻繁に見られ、完成したオリジナリティあふれる門松を大切に持ち帰っていた。



事業名

ファミリーデー

趣旨

親子で日常の生活を離れ、自然に親しみながら体験活動を行う。室戸の自然に親しんだり、施設の自然体験プログラムを楽しんだり、ゆったりと読書や星空観察を行うなど「室戸時間」を楽しむ。

実施期間

平成27年1月31日(土)～2月1日(日)

参加者/定員

66人/100人

事業の様子

小学生の親子を対象に初めて実施したプログラムで、1日目は室戸岬や海洋深層水施設「アクアファーム」を見学する「室戸岬えんそく」と、2日間共通の施設内選択活動、【すりばち広場を使ったディスクゴルフ、冒険の森で冒険遊び、ミニサイクリング場でおもしろ自転車、畳の広間でごろごろ読書、クラフト(竹笛作り、小枝工作、焼板工作、七宝焼き)を自分たちのペースで活動した。夜は、星空観察、ナイトウォーク、ごろごろ読書&読み聞かせの活動を楽しんだ。2日目は、施設内のオリエンテーリングコースハイキングや昨日と共通の施設内選択活動を楽しんだ。終了前には貝殻を使った置物を作ってお土産にした。自分たちのペースで、日常と違うゆったりとした「室戸時間」を楽しんだ。



事業名

ミュージックキャンプ

趣旨

ギターやドラムなどの楽器に触れることや曲作りを通して、音楽に親しむ心を養い、感受性を高める。

実施期間

平成27年2月7日(土)～8日(日)

参加者/定員

39人/30人

事業の様子

普段は触れることも見ることもないギターやドラムに触れられるということで、参加者の意欲が高く、充実した内容となった。曲作りでは、歌詞に入れるキーワードを参加者全員から募集することで「自分たちで作った曲」という思い入れを醸成することができ、最後の発表会でも元気な歌声が響いていた。設定した練習時間以外でも「楽器の練習をしたい」という声が多く、自由時間のほとんどを演奏練習に費やした参加者もいた。「家に帰ったら、お父さんのギターを借りて練習する!」という参加者もあり、親子のコミュニケーションの一助になればうれしい。



事業名

自主防災組織リーダーのための防災ワークショップ

趣旨

南海トラフ地震および大規模災害に備え、地域において準備・想定しておくこと、及び避難後の生活についてキャンプ等の自然体験活動が役に立つ場面や考え方を楽しみながら体験的に学ぶとともに、新たなネットワークの構築を目的とする。

共催

室戸ジオパーク推進協議会

実施期間

平成27年2月7日(土)～8日(日)

参加者/定員

25人/30人

事業の様子

外部講師による地震のメカニズムや自然体験活動についての講義を受けた後、実習としてブルーシートを使っての簡易住居作りなどを体験した。その中で、ロープワークをはじめとする自然体験活動の技術が被災時に役立つことを実感できたようだ。参加者の年齢・職業が多岐に渡ったことで、他の同様の研修とは違っていろいろ刺激になったとの声も聞かれた。



事業名

第7回 むろと2000本桜祭り

趣旨

地元有志が室戸広域公園に植樹した約2,000本の桜を觀賞するとともに、地域の活性化を図る。

共催

むろと2000本桜の会

実施期間

平成27年2月22日(日)

参加者/定員

約1,200人/定員なし

事業の様子

今年は前日までの冷え込みで桜の開花がかなり遅れていた。前日段階では二分咲き程であった。気候も不安定であったが、当日はたくさんの来場者に早咲きの桜と各種イベントを楽しんでいただけた。地元室戸市のフラダンスチームや他の地域からの参加もあり、華やかに開会した。当日は天候が悪かったが、夜桜会期間中は気温も上がり、桜の開花も進んでぼんぼりの明かりに照らされた早咲きの桜の花は見頃となっていった。22日の祭り当日は、各ブースが沢山の人が賑わった。野点のお接待での会話や、苔玉作りや木のペンダント作りに参加した人たちの表情からも楽しそうな様子がうかがえた。来場者は親子連れや年配の方など年齢層も広く、楽しめるイベントになった。



事業名

室戸トレイルランナーズミーティング2015

趣旨

トレイルランニングを通じて、自然の中で体を動かす楽しさや自然の魅力を発見し、また他者との交流を持つことを通じて体験活動の良さを実感し、もって体験の風をおこそう運動の推進を図る。

企画協力

クーランマラン人力旅行社

実施期間

平成27年2月28日(土)~31日(日)

参加者/定員

40人/50人

事業の様子

トレイルランは初めての試みであり、使用するコースも施設からかなり離れた野根山街道ということで、事前準備には万全を期した。天候には恵まれなかったものの、緑豊かな野根山街道コースでのトレイルランや、施設内を使った耐久レースなどを通じて、参加者間の交流も進んだようだ。参加者からは事業継続を要望する声が多く、プログラムやコースの見直しも含めて検討したい。



地域応援事業

事業名

高知県武道室戸大会

対象

高知県内の武道教室に通う小学生

実施期間

平成26年6月15日(日)

参加者/定員

131人/定員なし

事業の様子



事業名

中・四国6年生軟式野球室戸大会

趣旨

普段交流できない中・四国地域の小学6年生の軟式野球チームが一堂に会し、交流試合を通じて技術力の向上を図り、友情の輪を広げる。

主催

カメイクラブ

共催

高知東部クラブ

対象

中国・四国地域の少年野球チーム

実施期間

平成26年11月8日(土)、【～9日(日)雨天により22日(日)に順延】

参加者/定員

約300人/定員なし

事業の様子

10回目を迎えた少年軟式野球クラブの野球大会で、今年度は、高知、愛媛、徳島の13チームが熱戦を繰り広げた。2日目の9日は雨天のため22日に順延されたが、選手は元気にプレーした。



事業名

四国交流三四郎のつどい

主催

四国交流「三四郎のつどい」実行委員会

対象

四国四県の柔道教室に通う小学生

実施期間

平成26年11月15日(土)～16日(日)

参加者/定員

400人/200人

事業の様子

本大会は、今年20回を迎えた。四国4県からの参加があり、参加する団体

は他県のチームと対戦しながら、交流を深めることができることを毎年、楽しみにしている。

本年度は団体戦決勝において、香川県の牟礼柔道スポーツ少年団Aチームが優勝をおさめた。準優勝は徳島県の板野町柔道教室Aチーム、第3位は徳島県の鳴門市柔道少年団Aチームという結果だった。大会運営については、例年通り、高知県柔道協会、室戸市少年防犯柔道クラブの保護者の方々等関係各位の協力により、円滑に進行した。



事業名

四国少年野球大会（5年生）

主催

四国交流5年生軟式野球室戸大会実行委員会

共催

カメイクラブ

実施期間

平成26年12月6日（土）～7日（日） 1泊2日・日帰り

参加者／定員

四国地域12チーム 約600名

事業の様子

この大会は、普段あまり交流できない四国地域の小学生が室戸の地に集い、軟式野球という一つのスポーツを通して、技術の向上と友情の輪を広げる目的で開催している。参加チームからは「プロも使用した素晴らしい球場で、プレーすることができて良かった。」「普段は対戦する事のない地域のチームと試合ができ、刺激になった。」などの感想が寄せられた。選手達の熱気が感じられる意義のある大会となった。



管理運営報告

1. 職員の研修・講習等

- 「新任職員研修」 平成 26 年 4 月 3 日～4 日
(新採用職員、人事交流職員及びその他の職員対象 4 名参加)
 - ・ 所の概況、実施事業及び利用者受入業務の内容説明、実践を重視した基礎的研修

- 「救急救命・AED講習会」 平成 26 年 4 月 18 日実施 (全職員対象 8 名参加)
 - ・ 消防署職員による講義と実習

- 「指導系職員研修Ⅰ」 平成 26 年 4 月 11 日
 - ・ スノーケリング等の技能と指導方法の習得 (海の活動指導職員対象 3 名参加)

- 「指導系職員研修Ⅱ」 平成 26 年 4 月 19 日
 - ・ スノーケリング等の技能と指導方法の習得 (海の活動指導職員対象 2 名参加)

- 「指導系職員研修Ⅲ」 平成 26 年 5 月 1 日
 - ・ スノーケリング等の技能と指導方法の習得 (海の活動指導職員対象 1 名参加)

- 「指導系職員研修Ⅳ」 平成 26 年 7 月 1 日
 - ・ スノーケリング等の技能と指導方法の習得 (海の活動指導職員対象 1 名参加)

- 「職員研修」 平成 26 年 5 月～10 月
 - ・ 社会教育とはなにか「社会教育指導者の姿勢と心がまえ」 (全職員対象 9 名参加)
 - ・ キャンドル作成 (全職員対象 12 名参加)
 - ・ 韓国での青少年教育について (全職員対象 12 名参加)
 - ・ バス運転技能実技講習 (バス運転従事職員対象 2 名)



2. 平成26年度国立室戸青少年自然の家施設業務運営委員会

日 時 平成27年2月10日(火) 14時～16時

場 所 国立室戸青少年自然の家 第1集会室

出席者 川村、小松、酒井、佐々木(西野代理)、清水、田村、
(敬称略) 中山、西内、西尾、増田(川上代理)、安岡の各委員 計11名
(欠席者:大野、越智、中平、脇口の各委員)
YMCA阿南国際海洋センター所長 菅田

日 程 1. 開会
2. 所長挨拶
3. 委員紹介
4. 職員紹介
5. 議長選出
6. 議事
7. 質疑応答
8. 所長お礼のことば
9. 閉会

3. 栄典関係

当施設研修指導員の桑野敬氏が、当施設活動プログラムや教育事業への貢献、広範な施設での環境整備への尽力など、青少年教育の振興に貢献された功績により、平成26年12月5日に文部科学大臣から社会教育功労者表彰を受賞された。

●桑野敬氏 略歴

平成13年 独立行政法人国立少年自然の家国立室戸少年自然の家ボランティア指導員
平成18年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家指導員
平成22年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家研修指導員

●当施設における主な活動

クラフトなどの自然体験活動プログラムや海洋体験活動船「くろしお」の操船、施設開放事業「室戸くろしお祭り」などの事業で広範囲にわたり指導

4. 施設整備

○星を見る丘 展望台の改修

活動時の利用者の安全確保のため、星を見る丘に設置している展望台の改修を行った。

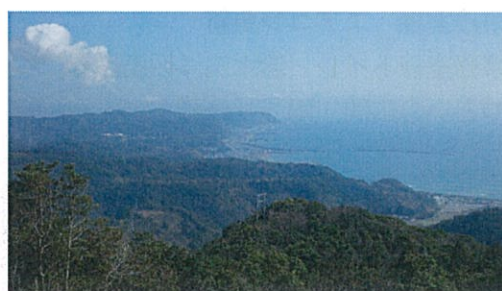


○展示棟周辺の立木の伐採

利用者により一層充実した活動を提供するため、展示棟周辺の立木を伐採し、展示棟から室戸岬への眺望を確保した。



【伐採を行った場所】



【展示棟から室戸岬を望む】

○孟宗竹の植樹

利用者により充実した活動を提供するため、孟宗竹を植樹し、竹を使ったクラフトの材料確保を図った。



○火災受信機の更新

安心・安全な活動環境を維持するため、火災受信機の更新を行った。



○その他

利用者に快適な生活と充実した活動環境を提供するため、下記設備の更新及び建物改修を行った。

- ・くろしお棟 エアコン更新
- ・研修棟トイレ アコーディオンカーテン更新
- ・事務室棟 エアコン更新
- ・事務室棟トイレ 温水洗浄便座設置
- ・つどいの広間 雨漏り修繕

5. 設備備品

○食堂 コンビオーブンの更新

利用者に食事を円滑に提供するため、コンビオーブンの更新を行った。



○くろしお棟 LED照明機器の設置

経費節減及び省エネルギーを図るため、くろしお棟にLED照明機器を設置した。



○標識の設置

利用者に快適な生活と安全を提供するため、施設内に路上駐車を禁止する標識を設置した。



○拡大コピー機の設置

教育事業等の周知及び広報活動の充実を図るため、拡大コピー機を設置した。



○プロジェクターの更新

利用者が当施設で実施する活動を円滑に行うため、プロジェクターの更新を行った。

○マリン用品の充実

当施設が5月から10月にかけて実施している海の活動（「スノーケリング」及び「オーシャンカヤック」）で使用するマリン用品のうち、使用頻度が高く劣化が著しいものについては、新規に購入し充実を図った。

6. 業務委託

○污水处理施設維持管理業務委託契約

污水处理施設維持管理業務委託について、一般競争入札を経て、株式会社コトブキと業務委託契約を締結した。

（契約期間：平成26年4月1日～平成29年9月30日）

広報活動

平成 26 年度も広報活動として様々なイベントにブースを出展し、活動体験と併せて施設のPRを行った。

実施日	イベント名	会場	来場者数
4月20日	海の駅「とろむ」感謝祭	海の駅「とろむ」	2,500
7月19日	ふるさと室戸まつり	海の駅「とろむ」	1,500
10月4,5日	とろむの日「イルカ祭り」	海の駅「とろむ」	1,000
10月19日	チアフルデー	国立吉備青少年自然の家	500
10月25日	大洲フェスティバル	国立大洲青少年交流の家	1,000
11月2日	室戸岬灯台まつり	室戸岬灯台	1,000
11月3日	農学部一日公開	高知大学物部キャンパス	1,600
11月9日	室戸市産業祭	海の駅「とろむ」	2,000
11月9日	淡路うずしおフェスティバル	国立淡路青少年交流の家	600
1月31日	春の観光開き	室戸岬	1,200
2月22日	むろと2000本桜祭り	室戸広域公園	400
3月1日	北川村観光びらき	モネの庭マルモッタン	200
3月14,15日	高知東海岸ハピもぐ海山フェスタ	こうち旅広場（JR高知駅前）	1,500
3月21日	イルカ春物語	室戸ドルフィンセンター	200



どこに行っても、磯の生き物に触れる体験は大人気！最近では、海辺で育った子供でもこうした体験が不足しています。



「木のペンダント作り」や「バルーンアート」も定番です。

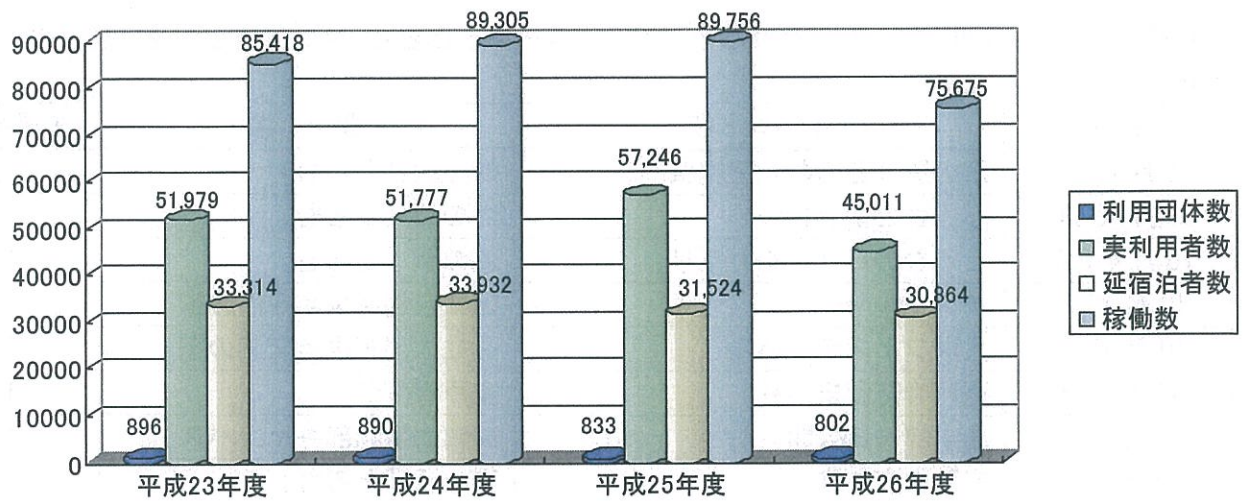
国立吉備青少年自然の家に初進出！

平成 26 年度も、可能な限り様々なイベントにブースを出展した。新たなイベントにも出展したが、体験活動の普及という意味でも、精力的にブース出展による施設利用PRを実施していきたい。なお、平成 27 年には高知県東部地区で「高知家まるごと東部博」という観光キャンペーンが開催されることもあり、高知県東部地区全体に注目が集まる年でもある。この機を生かせるよう、効果的な施設PRの方策を考えていきたい。

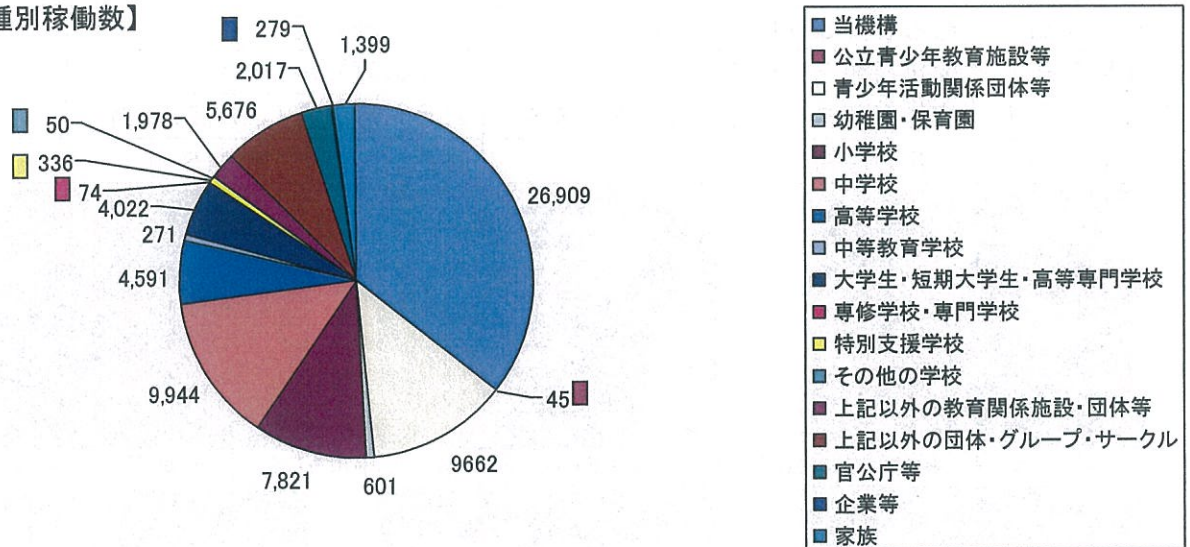
また、例年どおり高知大学の「学生団体リーダーシップセミナー」で施設をアピールさせてもらったが、他の大学の学生団体へのアプローチについても、計画的に行ってみたい。

利用実績

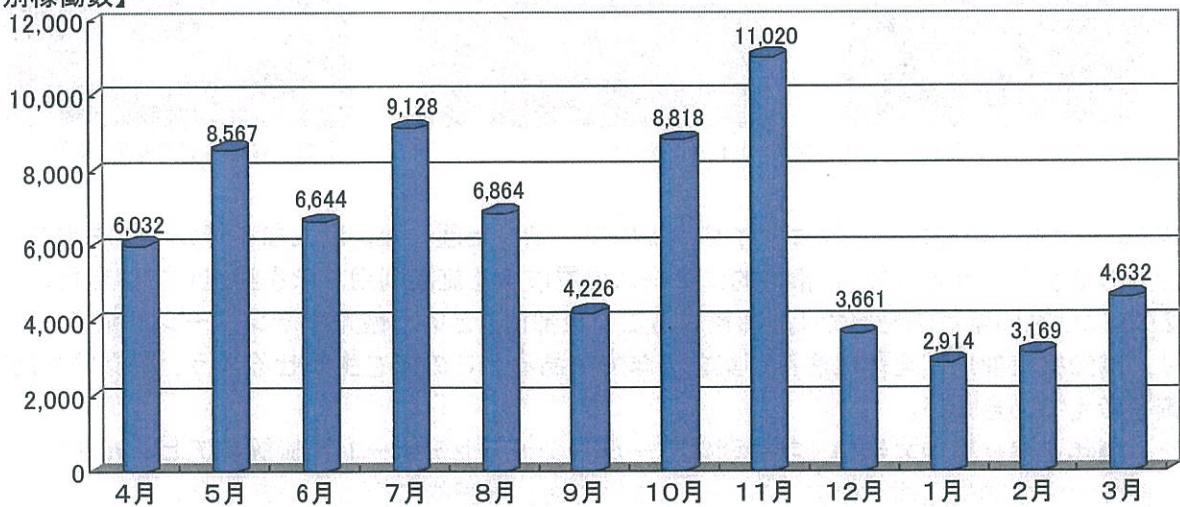
【年度別利用状況】



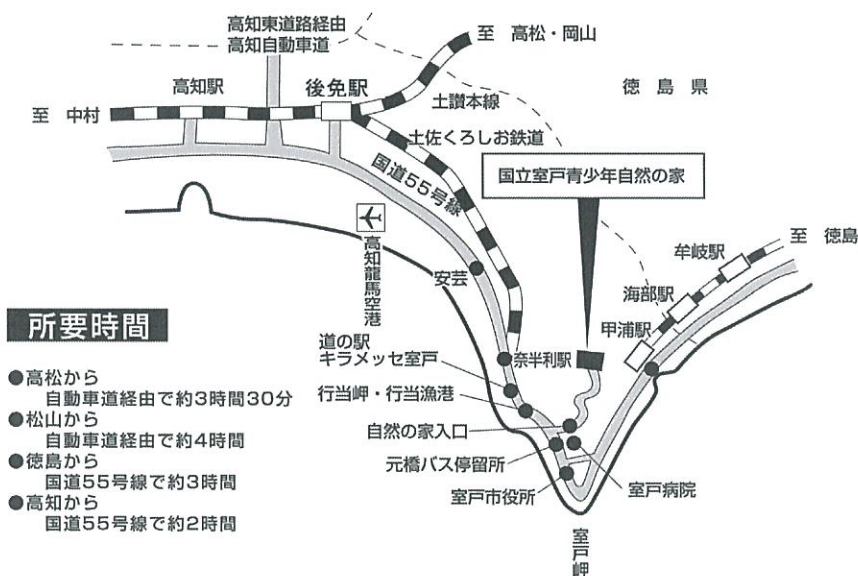
【団体種別稼働数】



【月別稼働数】



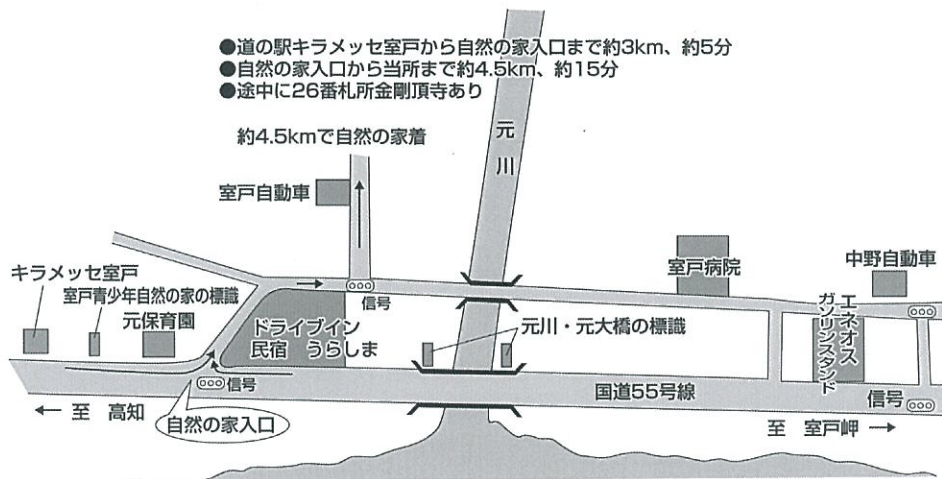
交通案内



所要時間

- 高松から
自動車道経由で約3時間30分
- 松山から
自動車道経由で約4時間
- 徳島から
国道55号線で約3時間
- 高知から
国道55号線で約2時間

自然の家への入り口付近詳細図



独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立室戸青少年自然の家

TEL. 0887-23-2313 (代)

FAX. 0887-23-2484

〒781-7107 高知県室戸市元乙1721

E-MAIL muroto@niye.go.jp

HP <http://muroto.niye.go.jp/>

